

お お ぞ ら

No. 152

聖隷福祉事業団への法人移管後は 35号

社会福祉法人 聖隷福祉事業団
総合病院 聖隷三方原病院
聖隷おおぞら療育センター

〒433-8558
静岡県浜松市北区三方原町3453
TEL 053-437-1467

発行責任者 荻野和功
編集者 横地健治

2012年10月1日

発達とは

所長 横地 健治

発達は、ない機能が新たに出現するものです。どうしてもこんなことが可能になるかについては、対立するふたつの考え方があります。生得説(または遺伝説)と環境説(または経験説)です。前者

では、生まれつき内在している資質が自律的に成熟することによって新たな機能が生まれるとします。後者では、環境の影響を受け、経験・学習することによって新たな機能が生まれるとします。この対立関係は、一般社会で「氏と育ち」と言っていることと同じです。

これに異を唱える本があり、興味を持って読んでみました。そうしたら、言語発達以外でも衝撃を受け、色々考えさせられました。今回はそれを述べてみます。それは、ダニエル・L・エヴレット著の「ピダハン」という名の訳本です。

私たちが日々関わっている生まれつき脳障害を負った人は、環境との相互作用のなかで健常者とは全く異なる精神世界を作り上げているかもしれません。そうならば、知的障害の精神世界を、実年齢より幼い健常小児の精神世界と等価とする発達年齢の考え方には大いに問題があります。

これは英語では nature (素質) and nurture (養育) と言います。もちろん、一方の価値を完全に否定するものではなく、どちらの価値がより重要かを争っているのです。前者は医学領域で、後者は心理学領域で優勢です。なお、私自身は生得説がしっくりきます。

これに異を唱える本があり、興味を持って読んでみました。そうしたら、言語発達以外でも衝撃を受け、色々考えさせられてきました。今回はそれを述べてみます。それは、ダニエル・L・エヴレット著の「ピダハン」という名の訳本です。

構成要素である関係節がないことなどから、生成文法は誤りであると著者は説いています。ピダハンには文字を持ちません。また、驚いたことに、ピダハン語は数を表す語がなく、左右を示す語もないとのこと。数の概念は、知能を構成する必須要素であり、ヒトならば生来持っているものと私は信じていました。よって、数の概念の有無は、知能障害程度の指標になり、発達年齢を想定する根拠にもなりません。ピダハン語は、アマゾン川と森林のなかで生きるすべを開発し、ピダハン社会の規律を作り、それを永続させています。数がわからないから、すべてのピダハンには知能障害だと言うのはおかしいこととす。著者が言うように、

私たちは聞き取った言葉を元に、常者は聞き取った言葉を元に、意味の世界を内面につけています。そうすると、生まれつき言葉を聞き取れない聴力障害をもった人の内的世界には健常者とは異なるところがあるかもしれません。同じように、生まれつき視覚障害をもった人の形の意味は、健常者とは違うかもしれません。また、大きい・小さいの関係、きれい・汚いの関係、表情や顔つきの意味も健常者と同じではないかもしれません。こうした感覚障害をもった人と関わる時、その内的世界の違いを察しなければならぬと思えました。

これを英語では nature (素質) and nurture (養育) と言います。もちろん、一方の価値を完全に否定するものではなく、どちらの価値がより重要かを争っているのです。前者は医学領域で、後者は心理学領域で優勢です。なお、私自身は生得説がしっくりきます。

原名は Don't sleep. There are snakes です。そのまま日本語に訳せば、「眠るな。蛇がいるぞ」です。ピダハンの言語には挨拶言葉(「おやすみ」など)がなく、これが夜眠る前に交わされる言葉だそうです。我々とは相当違った社会であることがこれからもわかります。この本ではピダハン語の分析だけでなく、ピダハンの生活や世界観、さらに著者の人生について述べられています。

こうしてみると環境と無関係に自律的に出現するものはないと思っただけでなく、この本では、生まれつきの感覚障害の人的内的世界が気になります。健

実は、この本で一番感銘を受けたのは、そこに記されている著者の人生です。著者は

言語発達については、世界に多様な言語が存在しており、言語は生後学習するものだとする環境説が主流でした。これに対し、世界の言語には共通する文法(「普遍文法」)が

ピダハン語には普遍文法の

ピダハン語には普遍文法の

著者は